

復興応援団だより

2015.9/N040
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

農業を通じた復興を応援しようプロジェクト

7月18日と19日、南三陸町の農家「小野花匠園」で2日間農作業のお手伝いをしてきました。1日目の活動はトマトの収穫で、学生スタッフも総出で収穫作業のお手伝い。同じビニールハウスの中に異なる品種のトマトがあり、時折収穫したトマトを食べながら作業をしました。まさしくとれたてのトマトはみずみずしく、いつまでも食べ続けたいくらい美味しさで

2日目は気温もぐんぐん上がるなか、菊の茎を支える網を、菊の成長に合わせて上げる作業を行いました。これは商品として茎を真つ直ぐに保つため、少人数でやるには骨の折れる作業です。加えて畑はとも広く大変でした。今回の参加者の方々は年齢層が幅広く、お互いなかなか交流しない世代の皆さんが集まりました。ボランティア



↑ トマト農園で説明を受ける参加者

アは被災地と参加者を繋ぐのみならず、参加者と参加者を繋ぐものでもあるのだと気付かされました。
(東北大・横山青)

高校生スタディツアー

7月26日、愛知県の高中生約40名を南三陸町に迎え、スタディツアーを行ないました。防災庁舎や戸倉中学校などで被災状況を学んだ後は、木材の加工品を販売する工房や金毘羅丸の高橋直哉さんのもとを訪れ、見学や作業のお手伝いをしました。真剣にお話を聞いたり、珍しいものに

目を輝かせたり、慣れない作業に戸惑ったりしながらも、そのひとつひとつが学びになっていきます。一日の最後の振り返りでは、一人一人の思いを試行錯誤しながら言葉にしていきます。感じたことをストレートに伝える姿勢が印象的でした。高校生のうちにしか学べないようなことを、存分に



← カキの殻を掃除する参加者に吸収できた一日になったことを願っています。
(東北大・加藤優志)

復興応援団とは

私たちは「地元の方が主役の復興」を目指し、主に南三陸町と多賀城市で活動しています。南三陸町では、地元の復興の担い手の元に全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファン」になってもらう取り組みをしています。多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届けするなど、住民のみなさんが中心となったコミュニティづく



← 南三陸町で震災の様子を学ぶ参加者

→ 多賀城市で復興応援団だよりを配布するスタッフ

8月8日、塩竈市の介護老人保健施設グリーンヒルズで夏祭りが行なわれ、復興応援団の学生スタッフも屋台の運営などをお手伝いさせていただきました。当日は天候不順のため屋内での開催となりましたが、利用者の方が職員の方と一緒に準備したという七夕飾りが飾られ、にぎやかな雰囲気になりました。会場では、いきいき倶楽部の方々による民謡や踊りの披露、そして塩釜高校吹奏楽部による演奏が行われました。地元の民謡や、朝の連



↑ ステージイベントの様子

「続テレビ小説「あまちゃん」のテーマなど、耳なじみのあるメロディに、利用者の方々も楽しんでいらっしかったです。
(東北大・岩館佑実)